

Circle Story of Meiji University

「自由」に、実験

演劇は、観客の前で役を演じ、台詞を言い、身体を動かし、舞台上を動きまわります。それは時に一人であったり、時に大勢であったり様々です。そしてこれらの作業を舞台上で繰り返しながら、観客にメッセージを伝えたり、何かしらの問いを投げかけたりして観客の心を動かすのです。演劇に本気で向かい合うことができるのは、多くの人の場合、学生時代だけだと思います。舞台にかかわり、お客さんを感動させるといふのは非常に素晴らしい、また貴重な体験であります。そして、この貴重な経験は学生時代の思い出になるだけではなく、その後の人生において生きていく糧となっていくのではないかと思います。

さて、明治大学にはいくつかの演劇サークルが存在し、それぞれのサークルに特色があります。我々実験劇場の特色は、とにかく「自由」ということです。サークル全体としての活動は年2回の本公演のみで、その他の活動は、公演をやりたと思う人が役者やスタッフを集めて自主的に公演を企画する、企画公演が主となっています。

2015年度新歓公演「それは忘れた頃に」舞台写真 (撮影:大野叶子)



2015年度新歓公演「それは忘れた頃に」舞台写真 (撮影:大野叶子)



2015年度新歓公演役者スタッフ集合写真 (撮影:大野叶子)

— 明治大学演劇集団 実験劇場 —

実験劇場は、明治大学文学部文学科演劇学専攻の実習団体として演劇学専攻第六期生により設立された劇団です。2008年に公認サークル化され、今年で8年目を迎えます。特定のジャンルにとらわれない、様々な表現形態の実験をしています。現在は和泉キャンパス第一校舎005教室を拠点に活動中です。2012年にはシアターグリーン学生芸術祭Vol.6に『廻る世界の4元ベクトル』で参加、2014年には同芸術祭Vol.8に、当サークルから生まれた劇団11が『僕とキミの自転車周遊記』で参加し俳優賞を受賞、どろんこのキキが『8月31日』で参加し美術賞を受賞しました。

文学部3年 平野憲人 (幹事長)

公演以外の活動として納会と集会があります。納会は春学期と秋学期に1回ずつ、集会は9月に1回行います。部員が一堂に会す場は、今挙げた年3回の集まりのみとなっています。そのため、他のサークルと比べてサークル全体としての活動は比較的少なくなってしまうのですが、そこが「自由」な実験劇場の核となっている部分です。決められた活動が少ないからこそ自由に自分の表現したいことを表現することができるし、その反対でみずから積極的に動いていかないと何もできずに終わってしまいます。1年生から4年生までの全員にやりたいことができる環境が整っているというのが、実験劇場の大きな魅力であります。

また、サークルの枠にとどまらず自ら劇団を立ち上げたり、外部の劇団の公演に出演したりと、学外で演劇活動している人も多く在籍しています。それは、縛りのない「自由」な実験劇場ならではの特徵ではないかと思えます。

— 実験劇場の1年 —

先ほど紹介した納会では、部長の先生にもご出席いただき、春学期であれば新入生の紹介や1年間の公演予定に

## Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ 明治大学演劇集団 実験劇場

ついでなどを話し合い、秋学期では1年間の活動報告や執行代の引き継ぎを行います。集会は学生だけの話し合いの場であります。

実験劇場の主な活動は、年2回の本公演と、そのほか年数回行われる企画公演です。本公演というのは、4月下旬または5月上旬に行われる新入生歓迎公演と、6月下旬から7月上旬に行われる新人公演の二つです。

新入生歓迎公演（通称、新歓公演）は、2年生が中心となって行う公演です。新入生は、この新歓公演を観て実験劇場に入学しようかどうか判断することが多いので、1年で一番大切な公演であり、今後のサークルの存続を左右する公演と言っても過言ではありません。また、新歓公演はほぼすべての演劇サークルが行うため、新入生はそれぞれのサークルの特色の違いを実際に眼で見て確認することができます。もちろん、新歓公演は新入生だけではなく、毎年たくさん在校生や一般のお客さんにもご来場いただいております。

次に、新人公演です。新人公演は、その名の通り新入部員が初めて演劇に携わる公演です。そして、この公演はの企画公演をきっかけにユニットを組んだり、劇団を立ち上げたりと、その後の演劇活動の基盤を作る良い機会にもなっています。

### —これまでの実績—

「シアターグリーン学生芸術祭」という学生劇団を対象とした芸術祭が、2007年から毎年夏に開催されています。審査に通った約10の団体が1ヵ月以上をかけて作品を競い合うコンペティション形式の芸術祭で、ほぼ毎年明治の団体はこの芸術祭に参加しています。2012年には同芸術祭vol.6に『廻る世界の4元ベクトル』で実験劇場として参加し、俳優賞と舞台美術賞を受賞しました。また、サークルとして参加するだけでなく実験劇場内から誕生した劇団やユニットも同芸術祭に参加しています。2013年には劇団霞座が『鉄の時代』で参加し、俳優賞と制作賞を受賞しました。2014年には劇団11とどろんこのキキの2団体がそれぞれ『僕とキミの自転車周遊記』と『8月31日』で参加し、劇団11が俳優賞を受賞、どろんこのキキが舞台美術賞を受賞しました。また、今年開催される同芸術祭vol.9に、劇団ハイマが

シアターグリーン学生芸術祭vol.8 だろんこのキキ「8月31日」  
(撮影：一澤洋平)



シアターグリーン学生芸術祭vol.8 だろんこのキキ「8月31日」  
(撮影：一澤洋平)

2015年度新歓公演「それは忘れた頃に」舞台写真(撮影：大野叶子)



シアターグリーン学生芸術祭vol.8 だろんこのキキ「8月31日」  
(撮影：一澤洋平)

勉強の場でもありません。一つの舞台作品をつくるとはどういうことなのか、「演劇」という形のない芸術をどのように表現するのか...などということを実践で学んでいきます。キャストであれば、発声法や滑舌練習、基礎体力づくりや台本の読み方など演じるうえで必要なことを、稽古を通して学んでいきます。スタッフは、それぞれ関わる部署によって仕事が多岐にわたるので、一言えませんが、舞台を支える裏方としての基本的な知識などを先輩の指導のもと学んでいきます。そして新人公演で学んだことを、その後の演劇活動に活かしていくのです。

最後に企画公演についてです。この公演は、本公演以外に演劇をやりたいと思った人が主宰となり公演を企画し、キャストとスタッフを集めて公演を打ちます。この企画公演こそが、先ほど述べた1年生から4年生までに平等に与えられたやりたいことができる環境なのです。学年の垣根を越えて自分のやりたいこと、表現したいことを演劇という形で「自由」に示すことができます。ここ数年は新人公演を終えた1年生が12月あたりに開催するという流れができています。また、こ

参加予定です。

### —これからの実験劇場—

2015年現在、実験劇場は約90名の部員が在籍している大所帯のサークルです。また、今年も例年以上にたくさんの方々に入学していただきました。今年はずいぶん新歓公演は終了しましたが、新人公演に向けて動き出している最中です（6月現在）。きっと、素晴らしい作品になると思います。

企画公演は先ほど述べたように、年末に1年生が開催するというのがこの最近の流れとなっています。実は、昨年は企画公演がこの1年生によるものだけという寂しいもので、上級生は個人の活動が主となってしまいました。ですので、今年はずいぶん企画公演を開催することで実験劇場としての活動を活発にし、盛り上げていきたいと思えます。また、今後も演劇を通してたくさんの方々と交流を深め、素敵な演劇体験をお届けしていきたいと思えます。